

読書会レポート

①きっかけ篇

2019年6月16日(日) 於 神保町

生まれて初めて「読書会」というものに
参加しました。 課題は ...



日付でお察しいただけるであろう...

ULYSSES

ユリシーズ

by James JOYCE
(1882-1941)



柳瀬尚記訳(河出書房新社)

2022年に刊行100周年を迎えるこの本を3年かけて読もう☆ という、大変興味深いこの企画を



ワタシが知ったのは、たまたま
主催者の一人を



でフォローしていたから。



とても良い
ネコの写真を
何枚か投稿していたの。

このためだけに東京へ行くべきか、迷いがなかったわけではないが、

往復の
交通費が
3万円...

5月にも別件で
東京に行くし...

○現役のジョイス研究者が主催している

どんな分野でも
現場の人や研究者のお話を
伺うお集いは貴重だし
必ず面白い話が聞けるから!

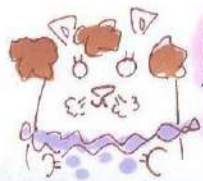
そして



このチャンスを逃すとわたしは
一生 ジョイスを読むことがないだろう!

何より

勘!



これは面白いはず!
行くべき! とわたしの鼻が
言っている!!

これらが決め手となり、
参加を申し込むことにした。

迷ったらGo!
ほ
キホンはね

第1回読書会と取り扱うのは柳瀬訳『ユリシズ』第4挿話 Calypso.

「第1~3挿話を読了していることが望ましい」



とのことだったので、

まずは家族が揃っていたパーパーバック版を読むことに。



原書至上主義なのだから！

ところが第1挿話 Telemachus が



全然頭に入っていない！

たんなり海辺でー
たんなりお母さんか
とくはー Stephen だー

目覚め時から夢の内容を思い出そうとしているような感覚。

暗変立ちこめ
はじめた頃、

有難いヒントが送られてきた。

挿話を11回分に読み進める必要もない。
主人公レオポルド・ブルームが登場する
第4挿話から読みはじめ、(中略)
1→2→3へと引き返し、(中略)と
読んでいく仕方は十分考えぬだろう。*



早速試すことにした。

第4挿話は

あ！読める！！



いわゆる「意識の流れ」がつつらつつら書かれており、
stream of consciousness

これには馬川梁みがあるし、(ほ)り言って 女子♥

後藤明生『扶み撃ち』とか、高野文子『バスに四時』とか、権名誠が

あ、

- あの外套は...
- 胸毛の 女子高校生
- シュークリームが
- アタシは...
- ノックとか...
- えのきだけはおクスリ...

これに気をとくして、
難なく、とは言わないまでも、

Penguin 版、柳瀬訳、集英社版の第4挿話を読み、

これぞ第1~3挿話にも目を通して、いよいよ

読書会当日を迎えるのだ。

引用元
* Webあかし 2019.06.07 [https://webmedia.akashi.co.jp/posts/3年後の序文-ユリシズ紙版100周年特別1120\(南谷厚成\)より](https://webmedia.akashi.co.jp/posts/3年後の序文-ユリシズ紙版100周年特別1120(南谷厚成)より)

<<ひふみ座>>へ。

主催者の皆様が

四十余名の参加者を温かく迎えてくださる。

知らないことばかり、知らない人ばかりで緊張するが、



はじめにご提案くださった

『ユリシーズ』を読むための5つの方法

に勇気づけられて。



① 意味と「？」を集める 蜜蜂になる

第1回講話から順にページを繰ることにこだわらず自由に(ページ、章、本の内外で)飛び回って好きな意味を集める

② ダブリン行きを楽しみにする

「ダブリンは裏切らない」
長らく現地に住んでいらした方のお話を伺うと②の気持ちになってくる!

「knowall」になることを諦める

③ 「小さな一つ」に情熱を注ぐ

それじゃ、性的暗喩を拾っていつみようかしらん...

読書の中断を「挫折」と捉えない!

④ 寄り道をしながら誰かと読む

お土産としてご紹介くださった関連書籍がどれも面白そうで、寄り道しがいがある!

⑤ 読者それぞれ個人の内と共に「生活者」として読む

『ユリシーズ』は普通の人々の毎日の生活の現実を祝福する小説
— D. Kirbel "Ulysses and Us"

肩の荷が!! 長年の罪の意識が!!

この言葉にふさふさ心に打たれる。

かくして、何の展望も持たずに生きているわたしに向かう3年を照らす希望の火を灯して読書会は進んでいった。

前半で匿名掲示板を使って感想や疑問を書き込んだり
専用のそれをリアルタイムで読めたりしたのは大変良かった。

グループのみんな
書き込み
なぜこのキレは
〜が〜で
自分はこれだ〜

プロジェクター?
画面に
映し出される

発言するの恥ずかしい
わざわざ挙手して言うことも...

ためらわなかったとありのことも
言える(書き込める)し、

他の人の書き込みを見て
気付くこともたくさんある。

どうそう、わたしもそーがえいになって!!
なるほど
どういう提えオが!!

スマートフォンの
アプリも入る

掲示板で場が温まった後は、口頭でも意見を言いやすくなる。
活発な議論・発表が始まり、脳と手が大変忙しくなる。

モリーが
かける言葉が...

それは
英語では
何だ?
えーと柳田
何頁だ?

第1挿話との
比較で...

その昔と
今の...

Columnは
すばらしい...

うわ、全然
記憶にない場面...

他の参加者の皆さんに感心する一方、自分がいかにテキストに読んでいたか痛感する。
知識よ、智慧眼よ!
少なくとも3回は読んでいたはずなのに!!

高卒
読書会
初参加

わたしにとっては、こんな風に一語一語を検討したりたくさんの資料にあたったりしながら
文学作品を読み込む作業は初めてだったので

何もかもが刺激的で
濃密で

そしてすごく
楽しかった!!

開始前から終了後まで、主催者の
皆様 のジョイス作品への想と

隅々まで行き届いた

参加者の“自由”と“権利”と“居心地の良さ”に対するご配慮に満ちた読書会だった。

ありがとうございました。次回も楽しみにしています。